

【ポスター発表】

医療ソーシャルワーカーによる研究動向

ー 『医療と福祉』 掲載論文からの検討ー

○ 日本女子大学 赤澤 輝和 (8405)

保正 友子 (日本福祉大学・1931)

キーワード：医療ソーシャルワーカー、研究、『医療と福祉』

1. 研究目的

医療ソーシャルワーカー(以下、MSW)においても研究の重要性が強調され、様々な研修が実施されている。しかし、その研修の根拠となる研究支援に関する研究は皆無に等しく、MSW を含めたソーシャルワーカーが研究を行う上でのバリアも散見される。そのため、MSW を対象とした研究支援には何が必要なのかを明らかにする一助として、MSW はどのような研究を行い、論文化しているのかを把握することには価値があると考えられる。

本研究の目的は、研究支援プログラム開発に向けたファーストステップとして、MSW による研究動向について、『医療と福祉』掲載論文を用いて検討することである。

2. 研究の視点および方法

研究対象は、日本医療ソーシャルワーカー協会(以下、日本 MSW 協会)・機関誌『医療福祉』に掲載された論文である。本研究の適格基準は、(1)2011年度～2023年度に掲載された論文、(2)一般論文(原著)または調査報告、(3)筆頭著者が保健医療福祉機関に所属する医療ソーシャルワーカーまたは教育・研究者とした。

掲載論文から収集したデータは、「論文タイトル」「筆頭著者所属機関」「著者数」「研究協力者数」「共著者教育・研究者有無」「研究目的」「研究対象」「研究方法」「分析対象者数」「回答率(量的研究のみ)」「文献数」「倫理委員会承認記載」「研究指導記載」「学会発表記載」「学位論文記載」「研究助成記載」であった。「論文タイトル」と「研究目的」は、日本 MSW 協会が示す認定 MSW が担保したい 11 の力量を参考に分類した。また、「研究方法」は岩田(2006:17)と近藤(2018:138)を参考に、研究区分を「理論研究」「実証研究」の 2 分類、研究方法を「質的研究」「量的研究」「混合研究」「文献研究」の 4 種類、データ・分析の深さを 1 次データ～4 次(分析)データの 4 段階に整理した。

統計解析として、単純集計、および筆頭著者を「MSW」「学位論文記載あり MSW」「教育・研究者」の 3 群に分け、Fisher の正確確率検定、Kruskal-Wallis 検定で比較し、統計学的有意水準は 5%とした。

3. 倫理的配慮

本研究の対象は『医療と福祉』に掲載されている論文のため、研究倫理審査の受審を必

要としない。本研究の遂行にあたり、「一般社団法人日本社会福祉学会研究倫理規定」を確認し、人権の尊重、個人情報保護の確保、研究の倫理性の確保、研究者としての責務、知的所有権の侵害の禁止を遵守した。また、本研究は共同研究であり、「研究発表の要旨集掲載原稿」への投稿内容について、共同研究者の承諾を得ている。なお、本研究に関連し、開示すべき COI 関係にある企業等はない。

4. 研究結果

研究対象期間中、『医療と福祉』は通巻で24巻発行され、132論文が掲載、適格条件を満たしたのは79論文であった。論文種別は「一般論文(原著)74.7%」「調査報告25.3%」、筆頭著者は「MSW40.5%」「学位(修士)論文記載ありMSW22.8%」「教育・研究者36.7%」、著者数は平均1.8人、研究協力者数平均0.3人、共著者研究者有は19.0%であった。

研究テーマとして最も多かった分類は「業務運営39.2%」であり、最も少なかったのは「組織外ネットワーキング2.5%」であった。研究区分は「実証研究91.1%」「理論研究8.9%」であり、方法は「質的研究51.9%」「量的研究36.7%」「文献研究8.9%」「混合研究2.5%」であった。対象は、MSWを含む医療福祉専門職62.0%が最も多く、患者・家族・一般市民は20.3%であった。分析対象者数は質的研究平均12.5人、量的研究平均269.5人、量的研究の回答率は平均37.7%、使用文献数は16.7編であった。データ・分析の深さは、「2次(分析)データ36.7%」「3次(分析)データ27.8%」「4次(分析)データ35.4%」に整理された。

統計学的に有意な差が認められたのは、MSWと学位論文記載MSWは教育・研究者と比較し、共著者に教育・研究者の記載($p<.001$)、研究助成記載($p=.024$)が少なかった。また、MSWは学位論文記載ありMSWと教育・研究者と比較し、倫理委員会承認記載が少なかった($p=.040$)。さらに、学位論文記載ありMSWはMSWと教育・研究者と比較し、研究指導記載($p<.001$)と4次(分析)データ($p=.002$)が多かった。

5. 考察

我々が知る限り、MSWによる研究の動向を明らかにすることを目的としたはじめての研究である。後ろ向き研究であり研究の限界もあるが、最も重要な知見として、「MSW」「学位論文記載MSW」「教育・研究者」の論文を比較した点がある。その結果、修士論文の指導を受けることにより、4次データ分析として質的研究では修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ、親和図法、SCATなど、量的研究では因子分析、重回帰分析、ロジスティック回帰分析などの多変量解析を実施できる可能性が示され、個別指導の重要性が重ねて支持された。また、MSWの研究支援を行う場合、研究倫理を基盤にしつつ、研究組織や研究助成の観点も必要なことが示唆された。

本研究はJSPS 科研費 JP24K05368 の助成を受けたものです。